

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：歴史地理学 ILAS Seminar: Historical Geography			担当者所属 職名・氏名	地球環境学舎 教授 山村 亜希		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)	15(15)人	配当学年	1回生	対象学生	全学向
曜時限	水5	教室	人間・環境学研究科棟433		使用言語	日本語	
キーワード	地図 / 読図 / 地理 / 歴史 / 京都						
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)							
【授業の概要・目的】							
<p>「地図から考える地域の歴史と現在」</p> <p>本授業は、京都及び日本各地の現在と過去の地図を比較し、地域の特徴と成り立ちを考察する、歴史地理学の入門ゼミである。</p> <p>(1) 京都の諸地域の江戸・明治・大正・昭和・平成の様々な時期の地図を比較し、地域の変遷・成り立ちを考える読図の練習を行う。</p> <p>(2) それをふまえて、京都市内のフィールドワークを行う。地図を片手に、今の景観の中に過去の痕跡を探して地図化し、その意味を現場で考える。フィールドワークは、授業時間内のほか、土日・祝日などの授業の時間割外の日程を調整して行う(土日祝の場合は自由参加)。</p> <p>(3) 受講生それぞれが、日本各地から対象地を選び、地図資料室に所蔵された地形図の中から、その地の異なる3時期の明治～平成の地形図を準備する。それらを着色しながら比較し、地域の特性とその変化について、レジュメを作成して発表を行う。</p> <p>新旧地図を比較すると、歴史から現代社会まで、地域の様々な姿が浮き彫りになる。地図帳や地図、旅行が好きな人、高校の地理が得意だった人に限らず、多くの人に、この授業を通じて、読図の面白さと有効性を学んでほしい。一般的に入手が難しい明治・大正期や昭和期の古い地形図のコピーを入手できるのも、この授業のメリットである。</p>							
【到達目標】							
地形図の読図力、空間から物事を発想・推定する力、現実の景観の中に地域の特性や歴史を見出す観察眼と好奇心を涵養する。京都に関しては、観光地としての京都だけでなく、生活空間・現代都市としての京都のあり方について学び、京都を多面的にとらえることができるようになる。							
【授業計画と内容】							
授業の進度・受講生の関心に合わせて、一部変更する可能性あり。							
<p>第1回 授業の概要説明</p> <p>第2～4回 京都の新旧地図の比較(読図作業・討論)</p> <p>第5回 京都市内を歩く(フィールドワーク)</p> <p>第6～13回 新旧地形図を読む(発表・討論)</p> <p>第14回 総括</p> <p>第15回 フィードバック(フィードバック期間中に行う)</p>							
ILASセミナー：歴史地理学(2)へ続く							

ILASセミナー：歴史地理学(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート20%、授業への参加度とコメントペーパー50%、発表30%

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各自で対象地域を一つ選んで、地形図の読図を元にした発表をするので、地形図の準備から着色、分析などの作業が予習に相当する。発表の時に出的意見をもとに、さらに分析や調査を深めて文章化し、期末レポートとして作成することが復習となる。

[その他(オフィスアワー等)]

総合人間学部の学生は、別途選抜を行うので、総合人間学部便覧のシラバスを確認のうえ、第1回授業に出席してください。授業中、地図を見て気づいたこと、分からないことは、どのような小さな点でも良いので、積極的な質問・発言を期待する。フィールドワークに交通費がかかる場合は、学生の自己負担である。学外のフィールドワークを含むので、学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険へ加入すること。